

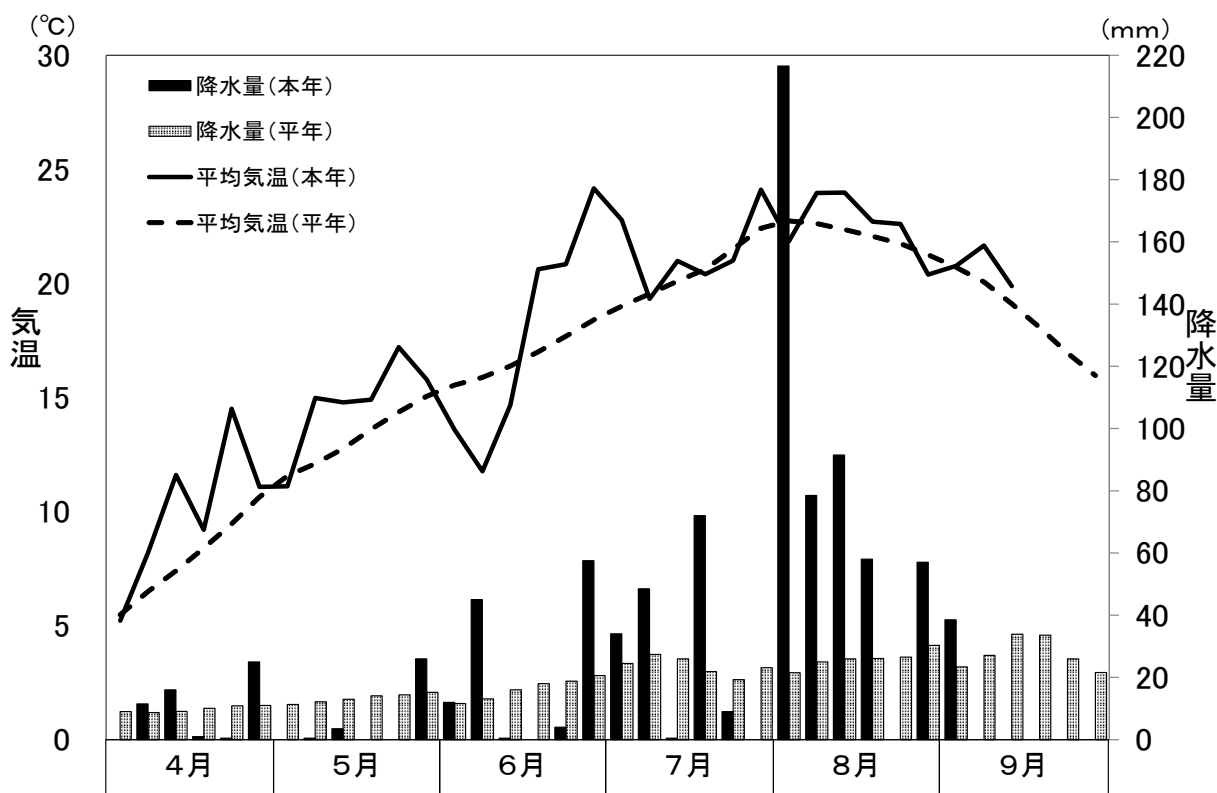
# 上北農業生産情報 第6号

令和4年9月20日  
「攻めの農林水産業」推進上北地方本部

## 水稻の適期刈取と農作業の安全に努めましょう！

- 刈遅れにならないよう、計画的に刈取を進めましょう！
- 胴割米の発生防止に向け、適正な温度での乾燥調製に努めましょう！
- コンバイン等による農作業事故がないよう、無理のない作業を行いましょう！

## 気象



半旬別平均気温・降水量の推移（十和田アメダス）

### 【8月】

- ・平均気温は、上旬・下旬は概ね平年並みで、中旬は平年を上回った。
- ・日照時間は、期間を通して平年を下回った。
- ・降水量は、期間を通して平年を上回り、特に上旬と中旬は平年を大幅に上回った。

### 【8月の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間h		降水量mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	22.9	22.7	26.6	27.3	20.0	19.0	28.3	51.1	295.0	46.5
中旬	23.3	22.2	27.3	26.7	20.2	18.6	30.6	46.3	149.5	52.1
下旬	21.4	21.5	26.3	26.1	16.6	17.5	48.3	51.7	57.0	56.8

注）気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計（下旬は11日間の平均・合計）

## 【9月上旬】

- ・平均気温は、平年を上回った。
- ・日照時間は平年を上回り、降水量は平年を下回った。

### 【9月上旬の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	21.2	20.4	25.9	25.2	16.7	16.3	54.8	44.1	38.5	50.5

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

### 東北地方 1か月予報(9月17日から10月16日までの天候見通し)

令和4年9月15日 仙台管区气象台 発表

- 暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- 気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

## 水 稲

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの「まっしぐら」(管内13地点の平均)の9月1日現在の生育は、稈長は平年並み、穂長は平年をやや上回り、穂数は平年をやや下回っている。
- 2 籾数(暫定値)は、1穂籾数、 $m^2$ 当たり籾数とも平年を上回っている。
- 3 9月1日現在の登熟歩合は、平年を大幅に上回っている。

### 【生育観測ほの生育状況(品種:まっしぐら)】

年次	出穂期 (月/日)	9月1日現在				1穂 籾数 (粒本)	$m^2$ 籾数 ( $\times 100$ 粒)
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	$m^2$ 穂数 (本/ $m^2$ )	登熟歩合 (%)		
本年	8/3	75.3	18.3	368	65.4	87.7	322
平年	8/5	74.9	17.8	377	48.3	82.7	310

注1) 管内生育観測ほ13地点の平均値、平年値は各地点の平年値(前3か年～前17か年の平均値)の平均値

注2) 登熟歩合は比重1.06の塩水に沈んだ籾の割合、籾数は暫定値

### 《今後1か月間の主な作業》

#### 1 適期刈取

- ア 十和田アメダスの平均気温のデータを基に試算すると、「まっしぐら」の刈取適期の終わり(出穂期の翌日からの積算気温 $1,200^{\circ}C$ の到達日)は、出穂期が8月3日のほ場では9月30日頃になると予想される。
- イ 個々のほ場の刈取適期は、出穂の早晚や籾数の多少によって異なるので、籾の黄化程度(ほ場全体の籾の約90%が黄化した時期)や籾水分(25～26%程度まで減少した時期)等から総合的に判断する。
- ウ 刈遅れは、茶米や胴割米の多発が懸念されることから、適期内に刈り終えるようにする。

【「まっしぐら」の刈取適期の目安（十和田アメダス）】

適期の目安	出穂期	7月30日	8月1日	8月3日	8月5日	8月7日
適期始(積算気温960℃到達日)		9月12日	9月14日	9月16日	9月18日	9月20日
適期終(積算気温1,200℃到達日)		9月24日	9月27日	9月30日	10月2日	10月5日

注) 積算気温は出穂期翌日からの毎日の平均気温を積算した数値、9月19日までは本年の平均気温、9月20日以降は平年の平均気温で積算

2 その他留意事項

- ア 倒伏により品質の低下が予想される場合は、倒伏部分を別刈りする。
- イ 登熟ムラによる高水分籾や未熟な籾の混入が多い場合は、籾水分18%程度で一旦乾燥を中断し、最低5～6時間貯留してから仕上げ乾燥を行う二段乾燥など、水分ムラに配慮した乾燥に努める。
- ウ 「良食味・高品質米」生産のため、乾燥は適正水分15.0%を目標とする。
- エ コンバイン等の機械の点検時には必ずエンジンを停止する。ほ場の出入りや傾斜地の走行は慎重に行うなど、農作業事故が起きないように十分注意する。

大豆

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在（調査日は9月9日）の生育は、草丈・着莢数ともに平年を上回っている。
- 2 8月の降雨の影響で倒伏しているほ場が散見される。

【生育観測ほの生育状況(品種：おおすず)】

調査地	年次	9月10日現在		備考
		草丈 (cm)	着莢数(莢/本)	
十和田市切田	本年	101.7	46.0	6/12は種(平年:6/6)
	平年	98.7	39.3	
	前年	107.4	34.8	

注1) 平年値は平成13年～令和3年の平均値、本年の調査日は9月9日

《今後1か月間の主な作業》

- 1 台風や大雨に備え、滞水しないよう明きょ等の補修を行う。
- 2 青立ち株や大型雑草は汚粒発生の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。
- 3 収穫適期は、コンバイン収穫では子実水分が20%以下、茎水分が50%以下に低下した時期である。収穫適期に達したら速やかに作業できるよう、早めにコンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- 4 湿害等により生育差がみられる場合は別刈りするなど、ほ場の状態を見極めて収穫する。また、培土高のムラが大きいほ場や倒伏が見られるほ場では、土による汚粒の発生を防ぐため、無理に地際まで刈り取らない。

## 小麦

### 《今後1か月の主な作業》

- 1 耕起・砕土は出芽、苗立ちの確保に関わる作業のため、丁寧に行う。
- 2 湿害を防止するため、明きょの設置など排水対策を徹底する。
- 3 種子伝染性病害の防除のため、種子消毒を徹底する。
- 4 は種作業は遅くとも9月末までに終え、越冬前の生育量を確保する。
- 5 は種量は10a 当たり条播で6～8kg、散播で12～13kgとする。

## ながいも

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在（調査日は9月9日）の生育は、いも長、いも径は平年を上回っているものの、いも重は平年を下回っている。
- 2 一般ほ場では、地上部は比較的生育良好に見えるが、大雨による滞水等の影響で、新しいもに腐敗やヤケ症状が発生している。
- 3 葉渋病、炭そ病の発生が広く見られており、一部落葉しているほ場が散見される。

#### 【生育観測ほの生育状況(種いも：1年子芽付き)】

調査地	年次	植付日 (月/日)	萌芽揃期 (月/日)	つるの穂 頂到達日 (月/日)	9月10日現在		
					いも長 (cm)	いも径 (cm)	いも重 (g)
東北町野田頭	本年	5/ 9	6/ 8	7/10	66.0	5.6	744
	平年	5/12	6/ 5	7/10	62.9	5.2	770
	前年	5/12	6/ 2	7/ 4	62.7	5.3	869

注) 平年値は平成25年～令和3年の平均値、本年の調査日は9月9日

### 《今後1か月の主な作業》

- 1 台風等に備えるため、ネットや支柱の補強や明きょ等の排水対策を行う。また、大雨等で穴落ちが発生したほ場は、速やかに埋め戻す。
- 2 葉渋病、炭そ病、ナガイモコガを主体とした防除を行う。
- 3 秋期もウィルスに感染するので、採種ほ場はアブラムシ類の防除を徹底し、発病株は早めに抜き取る。

## にんにく

### 《今後1か月の主な作業》

- 1 ほ場の準備と施肥
  - ア 黒腐菌核病、イモグサレセンチュウ等の土壌病害虫が発生していない排水性の良いほ場を選ぶ。なお、排水の悪いほ場に植え付けざるを得ない場合は、明きょや深耕など事前の排水対策を徹底する。
  - イ 土壌改良資材や堆肥は、土壌診断結果に基づいて施用量を決める。
  - ウ 基肥は、窒素成分で10a 当たり25kgを目安とする。

## 2 種子の準備

ア 種子用の球は、病害虫の被害や腐敗がなく、形が整った一球5～6片のものから選ぶ。

イ りん片重は10～15gを基準とし、大きさ別に3段階程度に選別し、できるだけ大きさを揃えて植え付ける。

ウ ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・種子りん片の選別後は速やかに消毒・風乾して植え付ける。

エ イモグサレセンチュウの被害拡大防止のため、種苗として正規の管理・チェックを経ていない種子は絶対に使用しない。

## 3 植え付け

ア 9月下旬～10月上旬に行う。

イ 植え付ける深さは7～8cm程度とする。

## 露地ねぎ

### 《生育状況》

- 1 8月のまとまった降雨の影響で肥大は平年を下回り、収量も平年を下回っている。
- 2 葉枯病やさび病の被害が散見される。

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 降雨に備えるため、明きょ等の排水対策を講じる。
- 2 斑点性病害、さび病、ネギアザミウマ等を主体とした防除を行う。
- 3 軟白長30cm以上を確保し、適期収穫に努める。

## 秋だいこん(10月収穫)

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在(調査日は9月9日)の生育は、は種期以降の断続的な大雨が影響し、葉長、葉数、根重ともに平年を下回っている。
- 2 7月下旬～8月上旬には種された一般ほ場の生育は概ね良好であるが、大雨で滞水した部分等が発芽不良となっている。
- 3 現在収穫されている作型では、菌核病が散見されているものの、7月下旬～8月上旬には種されたほ場では、病害虫の発生は特に見られない。

### 【生育観測ほの生育状況(品種：夏の翼)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	9月10日現在		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
東北町滝沢平	本年	8/ 5	29.6	11.5	41.2
	平年	8/ 7	30.4	14.0	68.5
	前年	8/ 7	20.3	11.2	13.1

注) 平年値は平成13年～令和3年の平均値、本年の調査日は9月9日

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 白さび病(わかか症)、アブラムシ類、コナガ等を主体とした防除を行う。
- 2 収穫は、L規格(1～1.2kg)を中心に、肥大状況を確認し適期に行う。

## ごぼう

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在（調査日は9月9日）の生育は、草丈は101.3cm（平年比102%）、葉数は3.6枚（平年比113%）で平年を上回っている。  
病虫害は黒斑細菌病が見られる。
- 2 一般ほ場では、8月上旬の大雨による浸水で、腐敗しているほ場が見られる。  
病虫害は、黒斑細菌病が見られる。

#### 【生育観測ほの生育状況(品種：柳川理想)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	9月10日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	5/ 1	101.3	3.6
	平年	4/30	99.5	3.2
	前年	4/24	70.5	3.1

注) 平年値は平成24年～令和3年の平均値、本年の調査日は9月9日

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 黒斑細菌病を主体とした防除を行う。
- 2 試し掘りで根部の肥大状況を確認し、適期に収穫する。

## りんご

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの「ふじ」の9月11日現在における果実肥大（横径）は8.3cmと平年及び前年を上回っている。
- 2 黒石市（りんご研究所）における果実肥大（横径）は8.4cmで、平年比105%、前年比102%となっている。

#### 【生育観測ほの生育状況(品種：ふじ)】

調査地	9月11日現在の果実肥大(横径)				
	本年(cm)	平年(cm)	平年比(%)	前年(cm)	前年比(%)
十和田市米田	8.3	7.7	107	7.4	112

注) 平年値は平成28年～令和3年の6か年の平均値

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 中生種の収穫  
ア 自園の果実の状況を確認し、早もぎせず、味をのせて適期に収穫する。  
イ トキは熟期が揃わないので、3回程度に分けてすぐりもぎを行う。早生ふじは、地色を見て2回くらいに分けて収穫する。

（ トキの収穫始めは黒石（りんご研究所）で9月30日頃と見込まれる。また、  
早生ふじの収穫始めは10月1日頃と見込まれる。）

- 2 風害防止対策

台風に備え、防風網の点検・補修や、幼木、わい性台樹の支柱の補強など風害防止対策をしっかりと行う。

## 牧 草

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほでは、平年より6日早い9月16日に3番草を収穫し、10a当たり乾物収量は188kgと平年並みであった。
- 2 東北町の一部でコガネムシ類の幼虫による牧草の食害が確認されている。
- 3 2番草の刈取りが遅くなった農家が多く、2番草の収穫で終了するほ場が多い。

#### 【生育観測ほの生育状況（オーチャードグラス主体）】

調査地	年次	刈取日 (月/日)	草丈 (cm)	乾物収量 (kg/10a)
十和田市米田	本年	9/16	77.9	188
	平年	9/22	75.6	185
	前年	9/14	73.7	216

注) 平年値は平成24年～令和3年の10か年平均値

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 3番草の刈取  
オーチャードグラス3番草の刈取りは、なるべく10月上旬に終わらせるようにする。
- 2 雑草防除  
ギシギシ等の雑草の発生が多いほ場では、除草剤を散布する。
- 3 土壌改良資材等の散布  
3番草の刈取り後に、土壌改良資材や堆肥の散布を行う。
- 4 コガネムシ類による食害への対応  
コガネムシの幼虫は土中で牧草の根を食害するため、加害された牧草は衰弱、枯死し、引っ張ると容易に剥がれるようになる。被害箇所を掘ってみると体長2～3cmほどの幼虫が容易に見ることができる。対応として、被害箇所を耕起して9月中に再は種する。なお、耕起の際は、幼虫殺傷率向上のためトラクターの車速を遅くし、ロータリーの回転数を上げて砕土する。

## 飼料用とうもろこし

### 《生育状況》

生育観測ほ（品種：パイオニア115）では、9月9日現在、乳熟期の状況である。

#### 【生育観測ほの生育状況（品種：パイオニア115）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	雄穂 抽出期	絹糸 抽出期
東北町北栄	本年	5/21	8月9日	8月12日
	平年	5/21	8月6日	8月8日
	前年	5/14	8月1日	8月4日

注) 平年値は、は種しなおした平成24年を除いた平成23年～令和3年の10か年の平均値

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 ほ場ごとの刈取適期（黄熟期）を確認しながら、計画的に刈取りを進める。
- 2 台風等による倒伏・折損が発生した場合は、速やかに刈り取る。